科目名 Subject	アクセサリーデザイン Accessories Design		教員名	樫原　恵子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
実践的教育	○				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	△	△
科目の概要	授業は装身具の歴史や知識についての講義と、実際にアクセサリーを制作する実習の組み合わせで構成します。知識と技術の両面に触れることで、アクセサリーのもつ意味を考えてほしいと思います。 装身具は、身分を示す、お守りにするなど、単なる飾りにとどまらない「意味」を持たされることが少なくありません。このような、人々の美意識や宗教観を取り込んだ装身具がもつ意味について考えます。 さらには、本科目を通して、アクセサリーのデザインの枠を越えた「もの作りをする人」の姿勢や考え方を身につけて欲しいと思います。				
授業の目標	制作を通して、もの作りの喜びを知るとともに装飾品の分野の知識を得る。 学生が、装身具の持つ意義を理解する。 アクセサリーの制作行程を理解する。 学生自身が、立体造形についての考え方を理解し、創作することができる。 素材を活かして表現することができる。				
時間外学習 （予習・復習）	雑誌等のアクセサリー関連記事を意識して確認しておくこと。 課題に遅れが生じている場合は次の授業までに進めておくこと。 各課題の前にシラバスの内容を確認し、制作するデザイン(配色等)を考えておくこと。 予習復習は、毎回６０分程度を想定するが、時間にとらわれ過ぎず、課題の遅れに対する対応や、デザインの構成などをしっかり行うこと。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	適宜用意します			
	使用設備・備品	工具、薬品類は適宜用意します			
	参考文献	雑誌等のアクセサリー関連記事は意識して見ておくこと			
評価方法	受講態度基礎点を最重要視して評価します。これに、課題に取り組む姿勢と熱意、作品の完成度と提出状況を加点することで評価とします。配点は受講態度基礎点を60%、その他を40%とします。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。				
履修上の注意	全ての課題は早く終われば良いというものではありません。丁寧な作業を望みます。 材料費は別途徴収（一人5000円。作品重量により追徴があります）。 実習では刃物や電動工具、薬品等を使用するため、ケガには注意すること。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	オリエンテーション ガイダンス 装身具の歴史　課題内容説明	装身具についての歴史、知識を得る。	授業料徴収します
第２回	ラップブレスレット制作 　入門編	ビーズと革紐を使用したブレスレットの制作を習得し、革編みを行うことができる。	予習として第3回のデザイン配色を決めておく
第３回	オリジナルラップブレスデザイン提出(最終課題用)	講義内容より 自身でイメージを形にすること、コンセプトの作り方を学ぶ	第2回と3回は同時進行で進みます
第４回	シルバーリング制作①	ガスバーナーを使用し金属加工の基礎を学び、実施できる。	リングに刻む文字を決定しておくこと
第５回	シルバーリング制作②	制作に必要なリングのサイズや計算方法を学び測定できる。	制作するリングのサイズを決定しておくこと
第６回	シルバーリング制作③	シルバーの研磨方法を学び、実施できる。	予習として制作するデザインを決定しておくこと
第７回	WAXによるチャーム制作	WAXによる鋳造技法を学び、実施できる。	予習としてレジンアクセサリーのデザインを調べておくこと
第８回	樹脂アクセサリー講習①	UVレジンの取り扱い方法を理解し行うことができる。	予習としてオリジナルレジンアクセサリーの(第9回分) デザインを決定しておくこと
第９回	樹脂アクセサリー制作②	UVレジンによるアクセサリー制作の工程を学び、行うことができる。	シルバーアクセを観察し、チャームの仕上げ方法を決定しておくこと
第１０回	WAXチャーム研磨仕上げ	鋳造の工程を知り、シルバーの研磨方法を理解し行うことができる。	予習としてオリジナルレジンアクセサリーの(第11回分) デザインを決定しておくこと
第１１回	樹脂アクセサリー制作③	UVレジンによるアクセサリー制作の工程を学び、行うことができる。	オリジナルブレスの材料を教材から調達し、次回授業の準備をしておくこと
第１２回	オリジナルラップブレスレット（３連）制作①	自らデザインしたブレスレットを制作することにより必要な技術を習得し行うことができる。	全3回のオリジナルブレスレット制作の進みを個人で判断し、進めておくこと
第１３回	オリジナルラップブレスレット（３連）制作②	自らデザインしたブレスレットを制作することにより必要な技術を習得し行うことができる。	次回授業で作業が終了するようにブレス制作を進めておくこと
第１４回	オリジナルラップブレスレット（３連）制作③	樹脂パーツとWAXチャームを取り付け、オリジナルブレスを完成。取り付け方法理解し行うことができる	授業まとめレポートの内容をまとめておくこと
第１５回	授業の総まとめ	構想から製作までの一連の流れを学び行うことができる。	授業まとめレポートの提出